

『双葉町応援隊 -KIZUNA-』被災地と心をつなぐ

京丹波町スポーツ少年団本部長 ○奥田 健次
京丹波町教育委員会社会教育課主事 奥田 康平

1.活動方針・目的

- ◆ 友好町双葉町に対して息の長い応援活動に結び付けて行く。
- ・ 仮設住宅の被災者と色々な角度から応援活動、交流を実施する。
- ◆ 双葉町を応援するという目標を掲げ地域一体となって人材育成、青少年健全育成に取り組む。心豊かな子供に育てる。
- ◆ 被災地の現状に合わせた応援活動を現地を訪れ継続的な活動について行政・仮設住宅自治会長と話し合い実行する。

2.活動内容

京丹波町スポーツ少年団が、東日本大震災復興支援ボランティア活動に立ち上がりました。子ども達ができる活動を・・・ということで、須知高校の協力を得、「食の宝庫という地元の良さを活かして、自分達でつくった野菜を被災地へ送り、学校給食等で使ってもらおう。」と平成22年3月にスタートしました。今回で3回目の取り組みとなり子供達も何をすべきか？を理解しリーダーを中心に被災地へ送るメッセージも考えました。関係支援団体と話し合いを持ちながら『双葉町応援隊 -KIZUNA-』プロジェクトを結成し三ノ宮地域のジャガイモ、野蔭の会の梅干しも一緒に仮設住宅の皆さんに届ける事が出来ました。子供達と地域が一体となった取り組みです。

3.他の活動団体の参考となる事例

食材の宝庫「京丹波町」の良さを生かし子供達と地域住民が一体となった取り組み出来ていると思います。京丹波町と友好町の双葉町を応援する。目標に向かって取り組む。須知高校、教育委員会、社会教育委員、女性の会、野蔭の会、三ノ宮地域農場作り協議会、京丹波町情報センター（ケーブルテレビ）等の諸団体が丸くなって双葉町を応援活動を実施。活動を通して地域の方々と自然な形で交流することにより人を思いやる心、感謝する心が育まれたと思います。まさに、「地域に包みこまれている感覚」ではないかと思います。このような活動は、子供の活動の場づくりであると共に、大人が結びつき、つながっていく機会としても大切だと感じます。活動の様子を町ケーブルテレビを通して京丹波町の皆さんに伝わり応援の輪が広がればと思っています。

4.今後の課題等

被災地双葉町を応援、被災地の目線に立った取り組みが必要。

自己満足（押し売り）の取り組みではなく相手の立場に立った取り組みをどうするか？

被災地の声を如何にして地域に反映させ実行していくか？その為には、定期的な会合を開催して情報交換が必要だと考えています。支援をしてあげるのでは、共に協力して取り組む（協働）事を考えて行く。例えば、お互いの地域の食文化（農作物）の交流を図る等。

継続した応援活動を続けて行くには、次世代のリーダー育成が必要で有ると考えます。

計画性を持った人材育成の取り組みや活動資金の確保について意見交換が出来ればと思っています。

『双葉町応援隊-KIZUNA-』 被災地と心を一つに

京丹波町スポーツ少年団
奥田 健次



京丹波町スポーツ少年団の活動

- 単位団での活動(ホッケー、野球、バレーボールetc...)
- 京丹波町スポーツ少年団全体での活動

合計 7競技 13団体 約200名

2011年3月11日
東日本大震災



友好町双葉町支援活動～応援活動

友好町「双葉町」との関係

東日本大震災発生以前から交流

- 双葉町⇔京丹波町(旧瑞穂町)
- 1994(平成6)年...旧瑞穂町と双葉町が姉妹町提携締結
- 2006(平成18)年...京丹波町として改めて姉妹町提携締結
- 中学生の子どもたちが交流事業を実施

東日本大震災の影響

- 福島第1原子力発電所の30キロ圏内
→町民全員に避難勧告、避難所生活

友好町双葉町のために

- 自分たちも力になりたい!!
- 何ができるだろうか？
- 自分たちで出来ることを取り組もう!!

食材の宝庫「京丹波町」

- 自分たちでも栽培できるじゃがいも作り
- 社会教育委員、地域の方々の協力
- 地元須知高校の農場をお借りして栽培開始



『双葉町応援活動』じゃがいも栽培

- 1年目...200キロ収穫
- 2年目...300キロ収穫
- **3年目となった今年
600キロの収穫**
- 収穫したジャガイモで
女性の会、保護者の協
力で「肉じゃが」を作っ
てもらいいただきました。



地域と協力しての応援活動

応援活動三年目の今年度は、地域と協力しての活動

- 「京丹波町スポーツ少年団」のジャガイモ
- 「三ノ宮地域農場作り協議会」のジャガイモ
- 「野落の会」の梅干し



双葉町仮設住宅へ届ける。
『双葉町応援隊-KIZUNA-』福島訪問



『双葉町応援隊 - KIZUNA - 』

2013年8月11日～14日「福島県いわき市、郡山市訪問

1. いわき市南台仮設住宅訪問

- ・みんなで袋詰めしたジャガイモをメッセージと共に手渡し
- ・交流事業(折り紙の傘作り)を案内



『双葉町応援隊 - KIZUNA - 』

2. いわき市南台仮設住宅の皆さんと交流

- ・『折り紙の傘』を被災者の方と一緒に作りました。
- ・『お茶会』いろいろな話をしました。
- ・『味夢くん(京丹波町食のキャラクター)』も大人気



取り組みの成果とこれからの活動

- ・震災発生直後後、支援物資、義援金を被災地へ届ける。
- ・京丹波町社会教育委員を中心として『秋の恵みを届け隊』結成、京丹波町の町民から提供頂いた食材を届ける。
- ・2013年10月、いわき市南台仮設住宅を京丹波町社会教育委員が訪問、交流事業を実施。
- ・京丹波町と双葉町との絆が強くなる。

《今年の取り組み》

- ・継続事業としてジャガイモ栽培、仮設住宅訪問
- ・被災地での交流(仮設住宅での交流)
- ・双葉町立小中学校の再開⇒交流を模索。
- ・安心、安全な食材を提供
- ・双葉町社会教育委員さんと連携、活動を協働。